

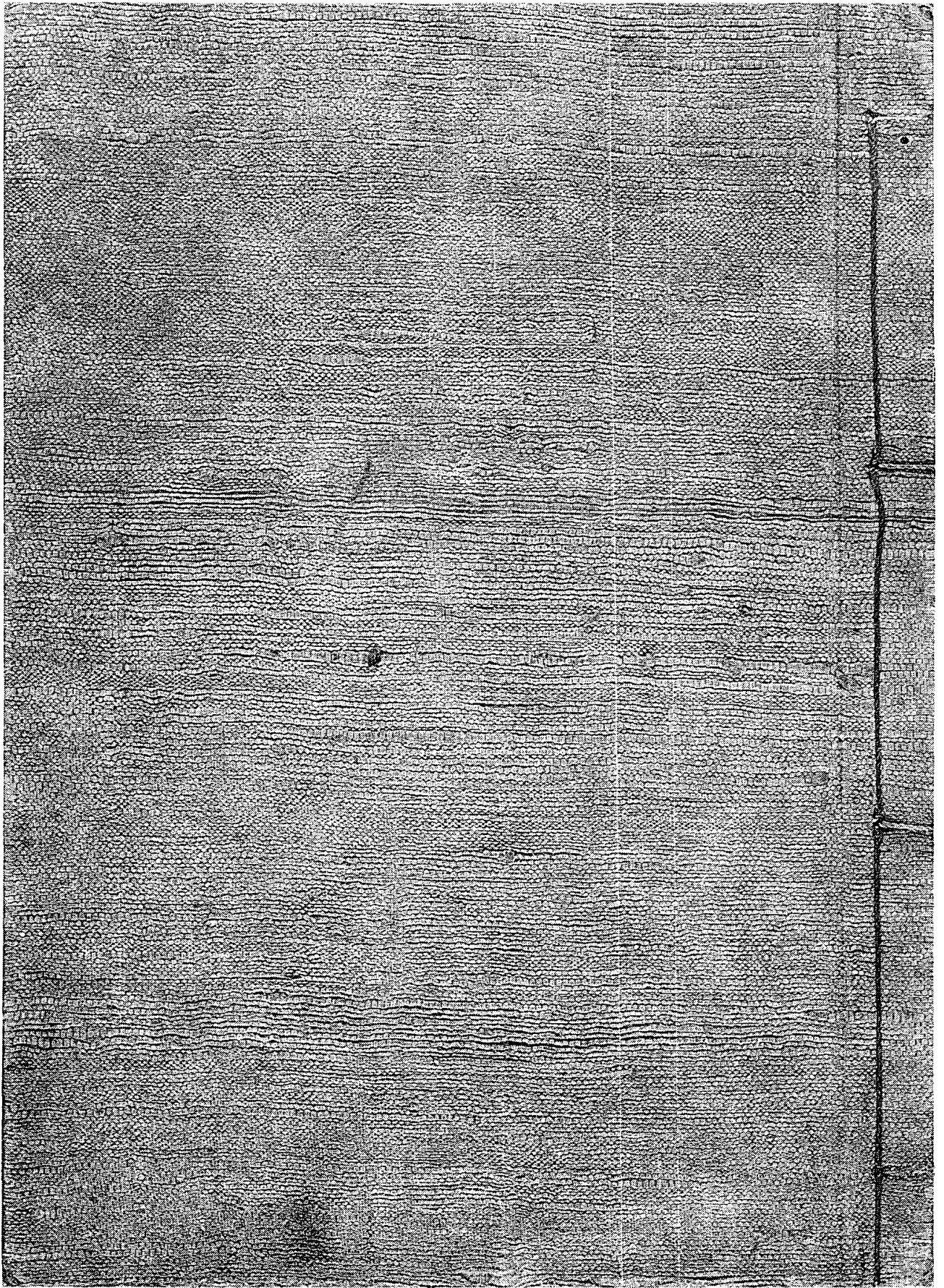
Title	夫木集緊要橘冬照筆写本
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	1978
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.15上 (1978.) ,p.221- 346
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	目次のタイトル: 夫木集緊要橘冬照筆写本巻上一冊
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-00000151-0221

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

*注記・・論文中の写真については転載する場合は斯道文庫にお問い合わせ下さい。

夫木集緊要 橘冬照筆写本



此書全部三十六冊目錄一卷を附す、遠江此佐人、勝田越前守長清朝臣、法
名蓮昭に撰たり、中昔の頃此家集私撰百首等此中より、代の勅
撰に漏りし等もを、拾い輯りたり、跋と奥書とに、く趣意、今よ
り已後此勅撰の、又此道に心さし、深き、む人の、よりに嘲り、を
願ふ、善悪の、博く録し、おくより、ふり、此題号、より扶蘇
集と名つきて、冷泉黄門爲相卿に見せらる、し、御申され
く、此大成や、に、皇朝此深秘の書なり、但し扶蘇を
因此総名まれ、悼らる、と申されて、扶字の、し、案字此
木をと、り、あ、夫木和歌集と、名つけられ、趣き、を
長清存生此間、深く秘藏して、外見、及、は、を、没後、世、を
強り、し、を、實、に、沈、集、て、後世、此萬葉、も、さ、る、書
は、そ、あり、け、然、れ、も、世、を、り、て、風體、卑俗、に、推移、り、其編集
も、又、右の、趣意、を、り、は、よく、撰、を、し、て、を、取、り、し、等、も
て、多、う、り、あ、故、古、學、典、り、て、の、ら、い、を、あ、い、ち、り

て古きものよりよの目をつゝむまはの人びらちてやや好ま
 れぬものもあはれとてころにもあらず時代を時代とて
 又其哥ともれ放縦ちる中へ還て其世人ももの自在なる事
 せけんとして、今耳眼緊要比句を、廣く搜覓せむとてつと用
 あり書ふこそき有くれかてくもひ、耳眼緊要の句ともり
 就て撰まんよとて、あつち一首れうれば善悪もよとて、一
 うとのひもあつて、その方に用あるを主とせれば、秀哥をと
 て撰ふとは少くもあつちる、その哥の傍に、播せる点とも
 つてあつちるもあつちる、其取らざるも、哥との大概
 をいへば、

卯杖　くふやれうらまを年のくもて、雪ののをくうつ、佳ふちり
 若菜　あつちるあつちるのあつちる、あつちるあつちるのあつちる、あつちるあつちる
 梅　あつちるあつちるあつちる、あつちるあつちるあつちる、あつちるあつちるあつちる
 曰　あつちるあつちるあつちる、あつちるあつちるあつちる、あつちるあつちるあつちる

柳	春をわがまはももさののちまらるるまをりて折
同	そは風の吹まはるる河のそよ木の命をまらりつらつまたをり
同	わけてらるるまのそよ木の命をまらりつらつまたをり
榴行請	いふり山をの枝をまらるるあまねく人のくちやうすふれ
遊絲	中まらるるもかそよ木の命をまらりまはるる日結てあまねく
春駒	みづの江のそよ木の命をまらりまはるる日結てあまねく
燕	二月はまらるるはまらるるまの命をまらりまはるる日結てあまねく
花	春まらるるまの命をまらりまはるる日結てあまねく
同	布引のまらるるまの命をまらりまはるる日結てあまねく
同	中河のまらるるまの命をまらりまはるる日結てあまねく
雉	高まらるるまの命をまらりまはるる日結てあまねく
同	まらるるまの命をまらりまはるる日結てあまねく
蛙	まらるるまの命をまらりまはるる日結てあまねく
同	まらるるまの命をまらりまはるる日結てあまねく

さし入るは... 今此拱よえく... 平...
てよ... 延... 平... 賀茂翁の平...
雪... あ... のねれふも...
—の... 更り耳驚くは...
あり... 只其... 地を動... として詞...
... 右の... 今一... 耳眼の...
お... 又今一種名所... 名を... 所...
其名もてつくり... せ...

- 山 春... けと... するの山... くに... 花の... くれ
- 日 か... 誰... 花の... 山... 花の...
- 日 梅... 花の... 山... 花の...
- 日 山... 花... 山... 花...
- 日 山... 花... 山... 花...
- 日 山... 花... 山... 花...

日 三才のついでに山はなまじりてしるしむるも
 日 夕やけはくすもぬきもいづもほしむるも
 日 あまの丸うすくさるるもあまの丸うすくさるるも
 日 ちのめ月うらぬるもあまの丸うすくさるるも
 かくもあまの丸うすくさるるもあまの丸うすくさるるも
 徳速懐ちとの手もた詩のあまの丸うすくさるるも
 えてちのめあまの丸うすくさるるも花紅葉月雪ちのめ
 き四季此詠物もあまの丸うすくさるるも造りて
 つく手うすくさるるもあまの丸うすくさるるも
 あまの丸うすくさるるもあまの丸うすくさるるも
 皆便ちのめあまの丸うすくさるるもあまの丸うすくさるるも
 そあまの丸うすくさるるもあまの丸うすくさるるも
 山 秋やけはくすもぬきもいづもほしむるも
 日 ちのめ月うらぬるもあまの丸うすくさるるも

了討もをりて、弄の風體句調を去りて朱点著しく詞をもを
以て一首に肺肝耳眼をくく人習ひ遂に全弊に風韻三代
集乃高きに沂く——其昔に新情は後世に今よりきく方へ取へ
きりり今此集に乎幹野俗に降る方ありともくとも右の点著し
依て用ふるとすは母のつゝ新情に移る得のみちりて野調に根
をも失れあはくき偏に点著に徳より又此書を弄ひゆく程
ふつう考索し自在を得て愈吟詠之妙境の探り得るもハ
全く此緊要に撰の徳なりふもれ今より此書に馴れん壯士
等ハつゝふんてつゝ新調に富ゆくんと類々に後學より懸
愧せられて將に老吟を廢むとく人お月ゆきりたり守部
晩年よりて奇しき書も思ひ得つゝれ吾に従ふ後學に
くつに其勤勞あくに似たり又此集四季より始て數多の
雜りつゝて次第して輯され今より後言葉の林をわ
るるらん児輩のつゝ所謂題林の類の見合もされし

夫木集緊要上卷題

歲內立春

元日

立春

附初春

子日

若菜

鶯

霞

餘寒

殘雪

春冰

若草

梅

柳

早蕨

春雨

春駒

燕

花附落花

遲日

歸雁

春雜

雉

喚子鳥

雲雀

春田

蛙

堇

杜若

款冬

藤

躑躅

暮春

三月盡

新樹

卯花

更衣

首夏

餘花

早苗

五月五日

神祭

葵

賀茂祭

早苗

五月五日

菖蒲

郭公

五月雨

照射

麥

牡丹

檉

百合

鴉河

水雞

螢

夏神樂

夏雜

夏夜

夏月

紫陽花

夏草

夏野

蚊遣火

夏衣

扇
葵
夏
納涼
晚夏

瞿麥
夏田
泉
荒和祓

瓜
夕立
氷室

夕魚
蟬
夏鹿

蓮
茅蝟
夏虫

ふりもも雪とてふりくくく打す後にたれ

喜多院入道二品親王家五十首 入道二品親王

あふのあくれやうてくまはとりのねい

建長八年家百首并合 後九條内大臣

おーうていあうわううみ山さ

治承二年右大臣家百首 立春 皇太后宮大夫俊成

さーのあういんのあのとけゆきおのふれい

弘安元年百首 法印定園

あうあうあうあうあうあうあうあうあうあう

春年中 清原深養父

あすのたあうもいあうのふり

家集 山家早春 藤原清輔の臣

小野山のけああ

永久四年 春日 藤原忠房

古今春上 谷風

神代紀玉垣内津国

春のれをよみぬるはくちのこゝろに* 春のけしきをよみぬるはくちのこゝろに*

嘉禄元年百首

民部卿為家

あはれをよみぬるはくちのこゝろに* 春のけしきをよみぬるはくちのこゝろに*

同二年百首 海霞

家隆

古今秋上 春のけしきをよみぬるはくちのこゝろに*

餘寒

ともしの雪* 春のけしきをよみぬるはくちのこゝろに* 鴨長明

家集

同

為家

春のけしきをよみぬるはくちのこゝろに* 春のけしきをよみぬるはくちのこゝろに*

老若五十首平合

参議雅経

ゆきをよみぬるはくちのこゝろに* 春のけしきをよみぬるはくちのこゝろに*

残雪

光明峯寺入道攝政家百首 春雪

慈鎮

後撰春上 春のけしきをよみぬるはくちのこゝろに*

家集 梅

そとをすみの梅のうづりたに清輔

乾え々年仙洞乎合

前中納言為兼

梅の花※いさるあふふ※梅※いさるあふふ※梅※いさるあふふ※

柳

百首清乎

後鳥羽院

ふのふ田のふの河やま※ふのふ田のふの河やま※ふのふ田のふの河やま※

東三條より舟のりて清堂へりてとて岸柳を

伊勢大輔

あまのふのふ※あまのふのふ※あまのふのふ※あまのふのふ※

喜多院親王家五十首

季経

いさるあふふ※いさるあふふ※いさるあふふ※いさるあふふ※

光基院親王家五十首

岸柳

常盤井入道太政大臣

いさるあふふ※いさるあふふ※いさるあふふ※いさるあふふ※

建保三年名所百首

* 正三位知家

みゆき川そのまもきあきやまのけしきたふきつるりたり

宝治二年百首行路柳

為家

あきふりてりそめてりあきふりてりそめてりそめてり

文應元年七社百首

円

くさねの川をのりてりあきふりてりそめてり

百首寺

円

あきふりてりそめてりあきふりてりそめてり

嘉禄二年百首

円

あきふりてりそめてりあきふりてりそめてり

建長八年百首寺合

信實

あきふりてりそめてりあきふりてりそめてり

太宰帥勝忠御家。〇。塙柳

仲正

あきふりてりそめてりあきふりてりそめてり

拾遺物名いよやふふと交索
すけい 旅のりほやふふ
床しわれれりまの枕
しつゆきおくれり
新十雜下折句いよやふ
きを句のよおくれり
よれり人のいよくれり
とて手より

貞應三年百首 渡邊柳 * 為家

かゝるのあはれりよのらやまふいふんぬのまふり

光臺院親王家五十首 岸柳 経葉法師

すの川きのあき物あはれりよのらやまふいふんぬのまふり

○* ○○○○○○○○○* 選子内親王家三可

いづるの江のほとりあはれりよのらやまふいふんぬのまふり

早蕨

いづるの江のほとりあはれりよのらやまふいふんぬのまふり

かゝるのあはれりよのらやまふいふんぬのまふり

謀子内親王家平合 小可部

かゝるのあはれりよのらやまふいふんぬのまふり

* 六帖部 少人 衣笠内大臣

かゝるのあはれりよのらやまふいふんぬのまふり

文治六年五社百首 俊成

さくらびらりふふすむまのほけりる月よのうのりる

治承二年石大臣家百首

俊成

よの山さやらんちの川をのりるみさくら

日吉社百首

慈鏡

さくら山さやらんちの川をのりるみさくら

友原長清すのろ百首

法眼慶融

中さくら山さやらんちの川をのりるみさくら

家集古来哥合 山中花

家隆

ゆきまきさくら山さやらんちの川をのりるみさくら

河落花

平春時

けしきけりる月さくら山さやらんちの川をのりるみさくら

花月百首

定家

花のさくら山さやらんちの川をのりるみさくら

千五百番哥合

西園寺入道太政大臣

雉

家集繪ノ野ノ雉ノ...

和泉式部

假ノ侍ヲ兼...

六帖題

光俊

拾葉二四五丁ノ註

喚子鳥

堀河院御時百首

権僧云永縁

カモミテ...

十五番手合

二條院讃岐

ヨシ...

雲雀

五十首手

家隆

カ...

六百番手合

慈鎮

文應元年七社百首

* 為家

ふみのぶおのりゆりのまらねたふしむしむしむすれつじり

正治二年百首

* 正三位経一知家

ひらひらのゆりてんそそそそそそそそそそそそそそそそそそ

楚忽百首 董子

* 為相

しれはすすれつそそそそそそそそそそそそそそそそそそ

杜若

堀川院百首 杜若

* 推中納言師時

まはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまはまは

家集

* 顯仲朝臣

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

御集

* 後鳥羽院

そやのついなあまあまあまあまあまあまあまあまあまあまあま

杜若

二條院 讚岐

あゝ人をもつていふるを原のうけつてはしきやのりか

※※ 松平中

※※ 琴相

横山つたのけりてはつてはしきやのりか

家集 松平

※※ 仲正

山つてはしきやのりか

百首

家隆

そのてほすをきかすまの若衣おしほくしの色やかくん

若のそりも

俊恵

若のそりもをきかすまの若衣おしほくしの色やかくん

※ 文永二年七月七百首 浦底

※ 後嵯峨院

心あゝあゝやう街んまゝに若衣をきかすまの若衣おしほくしの色やかくん

家集 若衣の巻の若衣おしほくしの色やかくん

源有仲

若衣をきかすまの若衣おしほくしの色やかくん

建長八年百首

右近中将経家

※
村の...
家集
※
権僧正公朝

山...
百子平友
家隆

頃...
口
定家

〜の...
文治六年五社百首
俊成

若の...
家集
公朝

寺...
蹴踏

六帖
光俊

淡...
新

百首御歌

くまのまのしほのさきつし※くまのまのしほのさきつし※ 崇徳院

家集つゝも

あはれしつりてふりちつてふりまの山※ 小弁

永久四年百首躑躅

きりぎりすのつりてふりちつてふりまの山※ 神祇伯頭仲

家集 春歌

くまのまのしほのさきつし※ 権中納言長方

同※ 志平中

あはれしつりてふりちつてふりまの山※ 家隆

久安百首

あはれしつりてふりちつてふりまの山※ 郁芳門院安藝

六帖類

あはれしつりてふりちつてふりまの山※ 為家

新千恵一伊勢

浦つらつらみちみち
つらつらの中のおもひ
とつらつらつらつら

今平下向ときみみちみち

花つらつらつらつらつら
つらつらつらつらつら

西處春光日盡日

日

春の光を日盡す日
* 日

天慶二年宰相中将富尾風 三月暇日

* 貫之

春の光を日盡す日
* 貫之

三月盡乎

* 大僧正行尊慶文王

春の光を日盡す日
* 大僧正行尊慶文王

天徳四年三月暇日内裏乎合

* 博古佛

春の光を日盡す日
* 博古佛

六十五韻乎 九春將盡幾残日 瞻望嚴陰簷間斜

* 定家

春の光を日盡す日
* 定家

羽院、家百首暮春

* 家長朝臣

春の光を日盡す日
* 家長朝臣

拾遺連乎 人々
一々
二々
三々
四々
五々
六々
七々
八々
九々
十々
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

更衣

久安百首

俊成

あはれ衣入しとらぬらふもわらわもきくはらわら

正治二年百首

慈徳

まのわらわもわらわもわらわもわらわもわらわも

※ 家集 更衣

※ 後京極

十傳ふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら

六帖別号 更衣

中勢御ふら

まろけーるらららららららららららららららら

建長八年百首 手合

正二位忠定

あはれ衣入しとらぬらふもわらわもきくはらわら

六帖別 更衣

信実*

あはれ衣入しとらぬらふもわらわもきくはらわら

文応元年七社百首

為家

句

* 信実

建保三年和乎所哥合

* 從二位範宗

入道中務卿親王家出哥合

* 法師定圓

久安百首

* 実清朝臣

嘉元四年十一月當座百首

* 從三位為実

宝治二年百首早苗

* 知家

文永九年毎日一首中

* 句

Handwritten Japanese text in cursive style, consisting of several vertical columns of characters, likely representing the 'hundred poems' mentioned in the adjacent text.

十五百番平合

有菴

ゆゑにや別れもつゝさかたをものよのむののをやうん

百首平

慈鎮

ゆゑにや別れもつゝさかたをものよのむののをやうん

家集

芳村好忠

ゆゑにや別れもつゝさかたをものよのむののをやうん

嘉保三年五月家平合 盛橋

よゝん

ゆゑにや別れもつゝさかたをものよのむののをやうん

郭公

正治二年百首

前大納言忠良

ゆゑにや別れもつゝさかたをものよのむののをやうん

夏平中

三位経朝

ゆゑにや別れもつゝさかたをものよのむののをやうん

常盤井家百首 朝郭公

仲正

老若五十首奇合

慈鎮

あまのこゝろをよみてあはれむとていかにいふもよからずききほや

* 建保三年内大臣家百首 嶺部 信実

あまのこゝろをよみてあはれむとていかにいふもよからずききほや

近間部

* 俊成

あまのこゝろをよみてあはれむとていかにいふもよからずききほや

建保三年名所百首

* 知家

あまのこゝろをよみてあはれむとていかにいふもよからずききほや

同二年三月屋風寺

* 定家

あまのこゝろをよみてあはれむとていかにいふもよからずききほや

家集 郭

* 中務卿 鎌倉

あまのこゝろをよみてあはれむとていかにいふもよからずききほや

永万二年奇合時鳥

* 太宰大貳重家

あまのこゝろをよみてあはれむとていかにいふもよからずききほや

洞院攝政家百首 郭ら

洞院攝政

むさしのやを侍やとく人あききはおのくくくのくくくのくくく

成實卿とくくは奇渡郭ら 為奇

くくくくくくのくくくの郭らやくくくくにゆくくくく

※ 百首奇

定家

くくくくくくのくくくのくくくれれくくくく郭らくく

※ 雲葉五十首

祝部成茂

くくくくの秘ふふのゆくくくくくくくくくくくく

※ 嘉禎二年十首奇合

隆祐朝臣

くくくくくくのくくくのくくくくくくくくくくくくく

五月雨

百首御奇

中務御みこ

水くくくくくのくくくのくくくくくくくくくくくくく

家集 八月雨

西行

家集夏平

小舟

~~~~~\*~~~~~

正治二年百首

二條院讚岐

~~~~~\*~~~~~

* 文治六年五社百首 照射

俊成

~~~~~\*~~~~~

十五百番寺合

嘉陽門院楚前

~~~~~\*~~~~~

百首寺

慈徳

~~~~~\*~~~~~

司

家隆

~~~~~\*~~~~~

六帖歌

光俊

~~~~~\*~~~~~

古今逸二 春道列樹  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~


光臺院親王家五十首

* 家隆

いざのりゝの入江のゝのきりひらふちほのよきとらた

喜多院親王家五十首

* 前大納言兼宗

きりひらふちほのよきとらた

堀川院御時百首

* 匡房

五月のりゝのりゝのりゝのりゝのりゝのりゝのりゝのりゝ

正治二年百首

* 喜多院二品

あつりはもゆきし

喜多院、五十首

* 隆信朝臣

おもしろやの若波みくら

文應元年七社百首

* 民部卿為相宗

あつりはもゆきし

旅草

* 俊頼

あつりはもゆきし

此二首之故事拾葉三廿
丁々ニ註出

河邊見草

~~~~~

結縁經百首

~~~~~

行路草

~~~~~

河草 雲葉

~~~~~

御集 草

~~~~~

百首草 螢火透簾

~~~~~

家集

~~~~~

少將内侍

大納言經信

法印實仲

中務卿み

宗達

爲相







さゝの池の汀にすゝりてはなはたけりまゝのそら

十百番平合

後久我太政大臣

夏はの草もいさゝかふらふらとけりけりけりけり

弘安三年揺拙官百首

安嘉門院四條

更ゆけなきふりてはなはたけりまゝのそら

十百番平

後宗極

さゝの池の汀にすゝりてはなはたけりまゝのそら

六百番平合 夏夜短

定家

さゝの池の汀にすゝりてはなはたけりまゝのそら

夏月

嘉元々年百首夏月

為相

さゝの池の汀にすゝりてはなはたけりまゝのそら

乾元々年仙洞平合夏月

為兼

さゝの池の汀にすゝりてはなはたけりまゝのそら

夏哥中

法眼源全

ちりり行雲のふん月を氷をまきまきの集川

家集 夏夜曉月

仲正

かりそめ夕す。ぬくぬくかきかきあふの月を

十五番哥合

宜秋門院丹後

はもや子をいもあかきわきの山ぬらふ月を

六帖抄夏月

信実

庭の西の水ねらうさうさうかきすれもくさくさ月を

保延二年家成御哥合 夏月

高松院右衛門佐

ちりのけはきり涼しくすれ月をくさくさくさくさ

久安二年六月頭輔御家哥合 夏月 准后源親房

夏山の木のこもほしきくさくさくさくさくさくさ

可

入

まいてわくくさくさくさくさくさくさくさくさくさ

拾葉三下下注









建長八年百首合

後九條内大臣

すけりまはしる人ちりし小野のふらふらりてをの蚊遣火

蚊遣火を

俊頼

ちりまのきりりちりちりすれもあつりまきさうりれ

百首同

俊成

ゆきまのきりりちりちりちりちりちりちりちりちりちり

永仁元年内裏寺合

野中夏朝

荻原為通朝臣

ちりまのきりりちりちりちりちりちりちりちりちりちり

百首同

奔蓮

ちりまのきりりちりちりちりちりちりちりちりちりちり

家集 蚊遣

後京極

すけりまのきりりちりちりちりちりちりちりちりちりちり

夏夜

六百番寺合

有家

ちりまのきりりちりちりちりちりちりちりちりちりちり  
やいふちりちりちりちりちりちりちりちりちり  
神のちりちりちりちりちりちりちりちりちり



永久四年百首扇

六條院大進

※ ちよんれんかゆいさねとむしきあゆみのぬのきつーきんれ

※ 六帖歌

※ 為菴

かたれを思ふふくへるをそふか風を又そくへんれ

四季百首夏旅

※ 曰

※ ちよんれんかゆいさねとむしきあゆみのぬのきつーきんれ

瞿麥

家集

忠岑

ふくまのりつちよんれんかゆいさねとむしきあゆみのぬのきつーきんれ

曰 ちよんれん

俊頼

ちよんれんかゆいさねとむしきあゆみのぬのきつーきんれ

久安百首

俊成

※ ちよんれんかゆいさねとむしきあゆみのぬのきつーきんれ

寛喜四年五月六條右大臣家可合

仲實

をのむらゝ紅れふふきまけりてそそりて

※ 千五百番手合

※ 小侍従

ふもふりたむしひの心をそそりてなほかれりまきり

天喜四年九月六條右大臣家手合

※ 源親元朝臣

時一はむ外ふふもそそりてちりまきりてけり

光堂院・家立十そ 離瞿麥

※ 権律師隆昭

りすくく離りてそそりてなるをそそりてなほか

長永三年為忠朝臣家手合 夜思撫子

よそりて

白くれふ家のふふりてそそりてなほか

※ 洞院・家百五月雨

※ 藻壁門院但馬

もかたれにそそりてなほか

家集

※ 躬恒

まきりてなほか



















やま

後患

さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら

\*

河

山はさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら

文集百三十一 蕭疎風雨天蟬 吉暮秋

八條院高倉

さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら

土御門内大臣家十三十一 奇合 蟬 吉夏深

奔連

さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら

正治二年百三

源師光

山はさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら

十五番奇合

奔連

さくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくらさくら

海道宿次百首 宇山

為相

さくやのほくふかむき山のしんたをばあはれゆづり

茅焔

百首詩哥

土御門院

りくしのさくたむのしんたをばあはれゆづり

十歌百首

定家

ふふりゆめいふとせふりふふりふふりふふり

建保三年名所百首

藤原康光

ち江山ゆめいふとせふりふふりふふりふふり

千五百番詩合

後京極、

ゆくのさくたむのしんたをばあはれゆづり

句

ゆくのさくたむのしんたをばあはれゆづり

納涼







同年式部卿王家續千首 山家夏

為相\*

ま〜〜〜〜〜山家夏の松もむくぬれ。た。水

貞応三年百首 夏川

為家

ま〜〜〜〜〜夏川の松もむくぬれ。た。水

夏奇中木のけりぬきとて

俊頼

り〜〜〜〜〜夏奇中木のけりぬきとて

永仁元年楚忽百首

友原為那

石の上〜〜〜〜〜永仁元年楚忽百首

家集 夏奇中

信實

れ〜〜〜〜〜家集 夏奇中

正治二年百首

草三親王

う〜〜〜〜〜正治二年百首

同

隆房

れ〜〜〜〜〜同

朗詠建昌對水石序 三馬  
聖德太子國聖之扇代岸凡  
今長慈慈略三招際之珠  
当沙月分自得  
拾葉二十字 註下是各

泉

五社百首泉

ふりくろくおほくのまじりて  
たもろけりて若人あふふも  
心

\*俊成

句

まよわれ岩もくさし  
ゆふもけりて枕のまの  
くさるもまれ

句

堀川院百首

まよわりのあぢけりゆも  
ふれ。夜もまよひ  
せむさけも

俊頼

喜多院、家五丁首夏乎

前大納言隆房

たされ秋めもふも  
つ。もて月も  
たふねのたふ

建長八年百長合

信実

くさるるに岩もくさ  
るもけりてあぢ  
けりてあぢ

百首乎

寂蓮

山けりもくさるる  
ね枕も岩も  
くさるるも

泉為夏栖

句



正治二年百首 氷室

季經

まはのよるみくはすけり水さね\*みよふかちりくを

西河隠士百首平

後京極

ほつけあちしり水秋もてふいれみよふ水室しりれ\*

氷室

從二位行家

ふさひのふりふさすもはやちしりくけさるるを\*

夏慶

建長八年百首平合

後九条内大臣

ちしりゆきふりふさすもはやちしりくけさるるを\*

百首平

慈鎮

ゆさあふりけいさるる水さね\*みよふかちりくを\*

夏虫

千五百首平合

家隆

ちしりゆきふりふさすもはやちしりくけさるるを\*











權本文庫



